

---

# 夜間主コース

---

## Evening School

### 夜間主コース 開講ゼミナール一覧

平井 進（経済） .....	8
高田 聡（商） .....	10
小倉 一志（企業法） .....	11
三浦 克宜（社会情報） .....	12
西口 純代（言語センター） ..	13

# 教員名 平井 進（経済）

## 1. 研究主題

歴史学（西洋史）。特にヨーロッパの日常生活史。日常的な文化・生活のあり方を歴史的に考察し、個人をとりまく社会秩序の枠組と変化を考えます。人々の生活領域を扱う歴史学で、家族史や人口史、民衆文化、食物や病気、犯罪の社会史とグローバルヒストリー、環境史や災害史、開発や資源管理の歴史など様々な領域が考えられます。毎年テーマを決めて読む文献を選びます。来年度のテーマはまだ未定です（さしあたり民衆生活史か？）。

## 2. 指導要領

テーマに関する古典的な学術文献を輪読し、精読します。専門書に丁寧に取り組み、背景などを調べ、叙述構成を分析し、論旨の展開を把握していきます。履修者は、毎週予習として事前に参考図書も参照しながら文献を読んでおき、輪番で文献の論旨・内容・論点を紹介・整理するレジュメを作成してそれに基づいてゼミの場で報告し、レジュメ報告者以外の人は毎週コメント・レポートを作成・提出し、ゼミの場でそれに基づき意見を発表します。4年次には、各自が西洋史に関するテーマを選んで文献調査を行い、卒業論文を作成し、定期的にゼミで報告した後に提出します。

## 3. 指導テキスト及び参考書

未定。例えば、次のような本から数冊を選びます。

- ・ 阿部謹也『ハーメルンの笛吹き男：伝説とその世界』（平凡社）
- ・ 阿部謹也『中世を旅する人々：ヨーロッパの庶民生活点描』（平凡社）
- ・ 熊野聡『北の農民ヴァイキング：実力と友情の社会』（平凡社）
- ・ 川北稔『洒落者たちのイギリス史：騎士の国から紳士の国へ』（平凡社）
- ・ 千葉治男『義賊マンドラン：伝説と近世フランス社会』（平凡社）
- ・ 坂井洲二『年貢を納めていた人々：西洋近世農民の暮らし』（法政大学出版局）
- ・ 角山栄（編）『路地裏の大英帝国：イギリス都市生活史』（平凡社）
- ・ 良知力『青きドナウの乱痴気：ウィーン 1848 年』（平凡社）
- ・ 喜安朗『パリの聖月曜日：19 世紀都市擾乱の舞台裏』（平凡社）
- ・ W.レーゼナー『農民のヨーロッパ』（平凡社）
- ・ 平田雅博『英語の帝国：ある島国の言語の 1500 年史』（講談社）

以上は暫定的な候補です。図書館の教員指定図書コーナーに置きますので、応募を検討する人は、ゼミの方向性を知ってミスマッチングを避けるため、各自、同コーナーで手に取り、内容を確認した上で応募するか否かを決定して下さい。

## 4. 選考の方法（面接・テスト等）

・志望レポート等と面接などにより選考。志望レポートなどは電子メールで（Word 形式で作成したファイルを添付する方式）提出して下さい（締め切り：10 月 30 日）。アドレス：shirai アトマーク res.otaru -uc.ac.jp

・志望レポート等の書式・書くべき内容は、

名前・学番・メールアドレス・出身高校・部活・ゼミ説明会に来た日を記した上で、

- ① 本学入学後に読んだ本と観た映画、読んでいる新聞・雑誌、
- ② 履修した基礎ゼミと第 2 外国語、歴史学関係の科目、2 年生前期までの取得単位数を書き、
- ③ 図書館で内容確認した上記テキスト候補本が扱うテーマを簡単に説明し（3 冊分、それ以上でもよい）、
- ④ 志望理由、このゼミでどのような勉強したいのか、
- ⑤ 卒論で扱ってみたいテーマを説明する。

以上、合計 1200 字程度（それ以上でもよい）。

## 5. 面接・テスト等の日時・場所

・面接の日時・場所：11 月 7 日（木）頃。詳しくは追って連絡。

## 6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

・読書習慣があること以外特に応募条件はもうけません。西洋史に強い関心をもっていることが望ましい。また、読書好きの人は歓迎します。

・ゼミの内容上、学術文献をじっくり読んでいくのが基本作業となりますので、毎週の事前の準備作業（文献の読解、参考図書の参照、

---

レジュメやコメント・レポートの作成)を面倒がらず怠らず、ゼミでの報告・発表を嫌がらないことが求められます。

- ・ゼミの性質上、毎回出席することが求められ、成績評価の前提となります。部活・バイトなどを理由にした欠席・早退は認めません。
- ・各種資格試験や就職後の実務に役立つ「実学」ではありません。
- ・以上の4点から、二次募集終了後に「他に入れるゼミがない」という理由で応募するのは適当ではなく歓迎しません。

## 7. オープンゼミの日時・場所 (予定)

・特に催しはないが、木曜4限のゼミを選考期間中は見学可(3号館425B)。

・「研究指導オリエンテーション」(10月1日)とは別に、ゼミ説明会の開催も考えていますので、応募を検討している人は、応募前に上のアドレスに連絡して下さい。

# 教員名 高田 聡 (商)

## 1. 研究主題

経営史，なかでも，仕事観（史）など，企業と人間のかかわりを中心とする歴史分析。

## 2. 指導要領

テキストの輪読・討論が主体（活発な討議のなかで問題関心と分析力を養いたい）。

## 3. 指導テキスト及び参考書

要点は下記のとおり。

- ① 予定の一冊：マックス・ヴェーバー著（大塚久雄訳）『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 岩波文庫，1989年（ISBN 9784003420935）。
- ② 輪読する文献は必要に応じてできれば追加したい（追加の場合，文献は，輪読の時期・形式を含めて，開講後に詳細を決定したい）。
- ③ 参考までに近年の研究指導で輪読することの多い文献を例示すれば，以下の様な次第。
  1. マックス・ヴェーバー著（大塚久雄訳）『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 岩波文庫
  2. Reinhard Bendix; with a new introduction by Mauro F. Guillen, *Work and Authority in Industry: Managerial Ideologies in the Course of Industrialization*, Transaction Publishers（旧版部分には邦訳あり）

## 4. 選考の方法（面接・テスト等）

原則，面接，志望理由書，課題レポート，によって行う。

面接用に履歴書を用意されたい。履歴書には氏名，学生番号，特記したい学内外での活動，などをA4用紙に簡条書きで書いていただくとうありがたい。

志望理由書はA4用紙を用い700字程度でまとめられたい。研究主題にかかわる記述が望ましい。

課題レポートは，上掲のマックス・ヴェーバー著（大塚久雄訳）『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（岩波文庫，1989年）の373-412頁に所収の「訳者解説」（大塚久雄稿）に対する感想を700字程度で記すこと。この本は本学図書館（工事中は図書館事務室）で教員指定図書として5冊程度常備（禁貸出）。閲覧が困難な場合，高田までEメール連絡（takata[アットマーク]res.otaru-uc.ac.jp）のこと。

3つの書類のどれにも，名前と学生番号を忘れずに。

なお，場合によっては抽選他の方法も用いることがありうる。

## 5. 面接・テスト等の日時・場所

履歴書と高田ゼミ志望理由書と課題レポートを11月5日（火）17:30から19:30の間に高田ゼミ室（3号館4階，室番号421-A）に持参のこと。この時に各自の面接の日時を原則先着順で決定。

この時に来室かなわぬ方はこの時間以前にその旨高田までEメール連絡をなし，かつ，上の3書類もこの時間以前までに教務課の所定のレポートボックスに投函のこと。これらの方の面接の設定はEメール連絡等で後日おこなう。

## 6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

ゼミの運営では，私を含めたゼミ構成員皆での議論を大事な柱としたい。ただし，以下の2点は基本とする。

- ① テキスト輪読の際は，報告者だけでなくゼミ生全員が要約・コメントを毎回用意する。粘り強い読み込み，議論の作業が期待される。
- ② プレゼミとして2020年4月初頭までにゼミでの研究の導入となる文献をノートをとり読んでくる。文献は内定後に指定し，連絡する。

## 7. オープンゼミの日時・場所（予定）

期間中の木曜昼間ゼミ時間内に適宜設定（時間帯等の詳細は当日までにゼミ室ドア近くに掲示の予定）。

# 教員名 小倉 一志 (企業法)

## 1. 研究主題

憲法学の基本的な論点に関する学説・判例を学修します。

## 2. 指導要領

ゼミの進め方は、開講時に学生と相談して決めますが、現在のところ次のように考えています。

- ①参加メンバーを2、3人単位でグルーピングする。各グループは与えられたテーマについて学説・判例の調査・資料収集を行い、レジュメを作成し、発表を行う。
- ②その発表を基に、質疑応答を行う。特に、発表を担当しない側のグループは積極的に質問することが求められる。当然、教員も質疑応答に参加する。

## 3. 指導テキスト及び参考書

芦部信喜(高橋和之補訂)『憲法〔第7版〕』(岩波書店・2019年)・六法は、毎週、必ず持参すること (「手ぶら」で来ても出席とは見なされないので注意すること)。それ以外のテキストを追加購入してもらおうか否かについては、開講時に学生と相談して決定します。

## 4. 選考の方法 (面接・テスト等)

「面接」および学生各自が作成した「志望理由書」などにより選考する予定です。「志望理由書」は電子メール (word形式で作成した文書ファイルをメールで添付する方式) で提出して下さい (e-mail: ogura@res.otaru-uc.ac.jp) (締切: 10月30日 (水曜日) 20時)。

「志望理由書」には、①なぜこのゼミを選択したのか、②このゼミでどのような勉強をしたいのか、③卒業論文で扱ってみたいテーマ (可能であれば、その内容も) などを書いて下さい (それ以外の内容を自由に追加して構いません)。最低1200字は書くこと。

また、④既に履修済みの法律科目・現在履修中の法律科目についても書いて下さい。

応募者の状況により、1次募集と2次募集に分けて選抜を行うこともあり得ます (1次募集で全員決定するとは限りません)。しかし、このゼミを希望される方は、1次募集の段階から応募されることを強く推奨します。

## 5. 面接・テスト等の日時・場所

面接の日時・場所については、追って連絡します (メールチェックを怠りなく)。 現段階では、11月6日 (水曜日) のゼミの時間帯 (6講目・7講目) を考えています。

## 6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

- ・ 10月1日 (火曜日) に予定されている「研究指導オリエンテーション」には、必ず出席すること。
- ・ ゼミの性質上、毎回出席することが成績評価の前提となります (正当な理由のない欠席は認めません)。 その上で、ゼミにおける発言・報告内容などにより総合的に評価します。
- ・ 受入予定人数は10人程度を考えています。
- ・ 学生同士が自由かつ活発に議論できるゼミになればいいなあ、と思っています。

## 7. オープンゼミの日時・場所 (予定)

夜間主コースのゼミですので、オープンゼミは予定しておりません。ここ暫く、連続して夜間主ゼミを担当していますので、ゼミの雰囲気を知りたい方は、先輩達に聞いてみてください。

# 教員名 三浦 克宜 (社会情報)

---

## 1. 研究主題

ソフトウェア工学や知能情報学を基に、学生自身が抱く問題や疑問を解決する方法を考える訓練をします。また本ゼミでは、「とりあえずモノを作ってみる(プログラミング)」を基本スタイルとして活動しますので、基本的なプログラミング力を鍛える訓練もします。私自身も基礎となる方式や枠組みを提案するだけでなく、実際に動くモノ(情報システム)を開発することを心掛けています。

私の最近の研究では、クラウドサービス、述語論理、集合論、等価変換理論、多目的遺伝的アルゴリズム、情報システム開発などがキーワードになります。

## 2. 指導要領

3年次：研究活動の基礎スキルを養い、興味のある分野を明確にする

- 研究の基礎トレーニングとして簡単な問題の提案と解決法の発表を行います。
- ホットワードの調査や論文のサーベイを行い自分が何に興味があるかを考えます。
- 自分にあったプログラミング言語を見つけて、プログラミング力を養います。

4年次：研究テーマを決め、その内容を深める

- 各自の興味を基に研究テーマを確定します。
- 研究テーマについて調査・分析を行い、学士論文を作り上げます。  
※ 毎週、進捗をしめしてもらいます。

## 3. 指導テキスト及び参考書

別途、必要に応じて示します。

## 4. 選考の方法 (面接・テスト等)

10分程度の面接を実施して、面接内容と志望理由を基に選考します。

面接を希望される学生は、三浦(k-miura@res.otaru-uc.ac.jp)までEメールを送付して下さい。

※ 11月4日(月)までにEメールを送って下さい。

(メールの内容)

件名：氏名@三浦ゼミ志望

内容：1. 学籍番号

2. 氏名(ふりがな)

3. 学科

4. 返信可能なEメールアドレス

5. 志望理由(800字程度) ※ Wordファイルで書いて、添付ファイルで送ってください。

6. プログラミング力の程度(自己分析)

7. 面接時間 (第1希望, 第2希望) ※ 混み合うと希望に添えないかもしれません。

## 5. 面接・テスト等の日時・場所

日時：11月5日(火) 16:00 -- 20:00

場所：三浦ゼミ室 (3号館1階, 116教室)

※ 上記の時間帯の中で訪問可能な時間を回答して下さい。

## 6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

本ゼミは、学生自身が主体となり研究テーマを見つけ出しますので、繰り返しのディスカッションを基に研究テーマを決定します。そのため会話に積極的な方や話好きな方は大歓迎です。あとプログラミングに興味のある方も大歓迎です。Eメールでご連絡を頂ければ、教員室にお越し頂き、私の研究内容をご紹介します(可能な限り)。

## 7. オープンゼミの日時・場所 (予定)

なし。

## 1. 研究主題

言語学 形式意味論、社会選択理論

Linguistics, Formal Semantics, Social Choice

## 2. 指導要領

好きなこと、興味のあることを研究するのが一番なので、学生の興味を尊重しますが、言語の意味に関すること、社会選択に関わる研究を中心とします。

You can bring your own, but analyzing language meaning or relevant topics to social choice and welfare is the focus in this lab.

## 3. 指導テキスト及び参考書

We will discuss what we are going to read.

[D. Altschuler](#), [T. Parsons](#) and [R. Schwarzschild](#), *A Course in Semantics*, MIT Press, 2019

W. Gaertner, *A Primer in Social Choice Theory*, Oxford University Press, 2009

## 4. 選考の方法 (面接・テスト等)

Interview

## 5. 面接・テスト等の日時・場所

Interview will take place at Nishiguchi lab at 1-514 on November 6, Wednesday & November 13, Wednesday, during 6th or 7th period.

## 6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

If the above dates are not convenient to you, send an email to [nishiguchi@res.otaru-uc.ac.jp](mailto:nishiguchi@res.otaru-uc.ac.jp), with a subject line ``seminar.”